平成２６年度事業計画書
（平成２６年４月１日～平成２７年３月３１日）

１．学術研究助成事業

感染症の基礎的あるいは臨床的研究及び感染症に関する疫学的研究を行っている若手の個人を対象に、一般細菌感染症、ハンセン症、リケッチア症、寄生虫病などの研究課題に対して、公募により得られた研究計画を審査選考のうえ、本年度は第４１回目の研究贈呈者を決め、３月に贈呈する。
総額８００万円（１件１００万円）予算計上。

２．顕彰事業

顕彰事業である次の各賞について、公募推薦された個人を審査選考の上、表彰を行い当該事業における一層の拡充を図る。

（１）「大山健康財団賞」第４１回
発展途上国において、長年医療協力に尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者個人に対し、表彰状、メダル、副賞（１００万円）を贈呈する。

（２）「大山激励賞」平成２６年度
大山健康財団賞に準ずる功績のあった医療関係者を対象とし、今後一層の活躍が期待される個人に対し、表彰状、副賞（５０万円）を贈呈する。

３．学術集会支援事業

本年度は下記の学術集会に対し助成する。

（１）第２８回 Bacterial Adherence ＆Biofilm 学術集会に助成。３０万円予算計上
開催月日：平成２６年７月９日(水)
開催場所：都市センターホテル
学 会 長：松本哲哉先生（東京医科大学微生物学講座 主任教授）
Bacterial Adherence ＆Biofilm 領域に係わる諸問題および関連する新しい治療法、最新の技術に関する報告などを通して、今後のわが国における医療の発展に貢献するとともに、会員の親睦と医道の向上を目的とする集会である。

（２）第１８回国際ノートバイオロジーシンポジウムに助成。５０万円予算計上
開催期間：平成２６年９月２１日～２３日
開 催 地：Park Inn Pribaltiyskaya Hotel
Korablestroiteley st., 199226,
St-Petersburg, Russian Federation

国際ノートバイオロジー学会(IAG)は、世界各国の無菌生物学研究者が、３年毎に一堂に会する国際会議である。杏林大学医学部感染症学教室内に事務局をおき、日本、欧州、北米のIAG会員を対象とした学会活動の運営管理を行っている。IAGの定期的な学術集会である第18回国際ノートバイオロジーシンポジウムが、本年９月ロシア国ペテルブルグ市において開催されるため、事務局よりSecretary general（杏林大学医学部感染症学大崎敬子先生）を派遣し、同シンポジウムの運営を行う。

４．年報作成

平成２４年度大山健康財団賞受賞者の紹介及び学術研究助成金贈呈者の業績報告集(年報№３９)を作成することとし、２５万円予算計上。

５．寄附金

国際医学研究会（慶應義塾大学医学部学生組織）の第３７次派遣団の下記の活動に寄附をすることとし、３０万円予算計上。

同研究会は、１９７８年より毎年南米を中心に世界各地に医学生を派遣し、「医の原点の実体験」および「医学医療を通じた国際交流」、「活動を通じた現地への貢献」基本指針とし、国際医療活動を行っている。平成２６年度は下記の予定である。

訪問日程：平成２６年７月１２日～８月３１日
訪 問 国：ブラジル
活動内容：

マナウス：マナウス市保健衛生局の巡回診療船同乗実習を行い、医の原点を実体験する。

サンパウロ：サンタカーザ大学において現地医学生との交流会、サンパウロ州立大学において団長講演、医学医療を通じた国際交流をする。

クイアバ：原住民であるシャバンテ族の巡回診療に参加し、医の原点を実体験する。